令和５年度

園内研修報告書

テーマ
「園児が遊びこむための環境構成と援助の工夫」
～自然に親しみ、好奇心や探究心を育むことを通して～

園内研修メンバー
園　　長：大田　孝子
主幹教諭：糸数　和香代　・渡口　亜紀
保育教諭(5 歳児担任)
佐和田　美由紀　・大城　智子
平安名　優織　　・内間　智代

南城市公私連携保幼連携型認定こども園　佐敷こども園

令和５年度　構想図

幼児教育のめざすもの
生きる力の基礎となる
「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」

幼児教育の基本＜環境を通して行う教育＞
1，園児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活の展開
2，遊びを通した総合的な指導
3，園児一人一人に応じ、発達の課題に即した指導

本園の教育目標
よく考えて遊ぶ子　仲良くできるやさしい子　明るくたくましい子

教育・保育方針
〇一人ひとりの個性を大切にし、愛情豊かな教育・保育を実践する
〇様々な人とのかかわりの中で思いやりのある心を育てる
〇保護者の気持ちに寄り添い子どもの成長を共に喜び合える関係づくりに努める

指導の重点
〇元気よくあいさつのできる子の育成
〇使ったものを元に戻すことができる子の育成
〇集中して話を聞くことができる子の育成
〇自分が思ったことを進んで話すことができる子の育成
〇身近な環境に積極的にかかわって遊ぶ子の育成

テーマ
園児が遊びこむための環境構成や援助の工夫
～自然に親しみ、好奇心や探究心を育むことを通して～
目標
自然に親しむ中で、心動かされる体験を通して、興味を追求していく時間を共有し、仲間と共に心の満足を感じ、遊び込むための環境構成や援助の工夫を図る

～園児の実態～
1. 明るく穏やかで、友達と関わりながら遊びを楽しんでいる
2. 優しいかかわりができる
（友達・生き物への言葉かけ）
3. 観察力はあるが、追及して物事を深掘りしていく力が弱い

～保育の見直し～
1. 園児理解に努める
2. 園児の姿から、環境構成を柔軟に検討し、工夫する
3. 教育計画を立て、振り返りをすることで、援助の工夫に努める

令和５年度・園内研修年間計画書～

日時	研修名・内容
５月 10 日（水） 13；30～14：45	5 園研修会の事前説明会（5 園研）開催について 対象：公立幼稚園・公立こども園・公私連携型認定こども園の保育指導教諭及び主幹教諭（研究主任）等
５月２６日（金） 13：30～14：45	園内研修統一テーマの捉え(市主催) 「幼児が遊びこむための環境構成と援助の工夫」 対象：公立こども園、公私連携型認定こども園　研究主任他 講師：沖縄女子短期大学児童教育課・名渡山よし乃
６月２日（金） 10：00～ 6 月 29 日（木）	園内研修①（研修計画書提出に向けての準備）：佐和田・大城 ・サブテーマの検討 ・構想図作成など 園内研修② ・週案の作成について：大城美恵子 ・保育ドキュメンテーションについて：伊集恒子
8 月	事例の検討会 ・年長組担任
11 月 7 日（火） 11；00～12；00	園内研修③（研修報告書提出に向けての確認）：佐和田・大城 ・成果・課題・考察について
12 月 15 日（金）	園内研修報告書提出日
令和 6 年 2 月 22 日（木） 14：30 受付 14：40 開始	5 園研園内研修報告会(南城市庁舎にて) ・報告者　年長組担任　佐和田美由紀保育教諭 ・指導助言：沖縄女子短期大学児童教育学科講師：名渡山よし乃氏

～実践事例～

＊オオゴマダラの観察（6 月～８月） ５歳児

『幼児の実態』

・４月より「佐敷こども園」としてスタートし、一か月がたちました。新たな園といっても、自然環境はそのまま受け継ぎ、自然豊かな環境があり、毎日広い園庭で思う存分過ごす事ができている。
その中で、開園当初から、園庭にあるホウライカガミにオオゴマダラの幼虫が見られたので、興味がある子が徐々に増えていました。他のクラスが、玄関先に幼虫を持ってきたことをきっかけに、“クラスでも育ててみようか”という声かけに、みんなが賛成の声を上げたのが始まりになった。

『教師の願い』

・予想を立てたり、確かめたりして考えを深めるなど、身近な自然に関わることで、不思議さや尊さを感じてほしい。
・園の環境に好奇心や探究心を持って関わり、言葉などで表現し、友だちとの関わりを楽しんでほしい。

『環境構成』

・子ども達の気づきにいち早く対応できるよう、いろいろな素材を準備しておく。(子ども達の気づきを大切に、必要に応じて提供する)。
・観察してきた事を、振り返る時間を大切にし、取り組んできたことを可視化することで、クラスで共有し、考えを出し合って自分の考えをよりよいものにする機会にする。

『教師の援助』

・「これなあに？」「どうなっているんだろう？」など、子ども達の『なぜ？』に共感し、一緒になって考えをより深めていく場を大切にする。
・一人一人の思いや気づきから、仲間と共に考え、楽しんで好奇心や探究心を持って、関わるようにする。

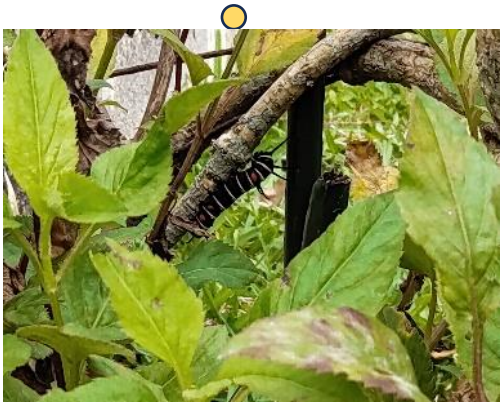
6/20（火）

※４ひきのオオゴマダラの幼虫を見つけ飼育スタート！

どこだ！どこだ！

向こうにいるよ！

ぷにゅぷにゅしてる～



6/21（水）

＊楽しみに飼いはじめた翌日、幼虫の元気がないのを見て、子ども達から、”どうして？　なぜ？”の声が上がった。その日、コオロギやバッタを捕まえて同じケースにいれていた。「喧嘩したんじゃない？」「葉っぱが枯れているから美味しくないかも」「オオゴマダラだけがいいんじゃない？」「葉っぱを水につけたら？」など、いろいろな意見がでた。原因はわからずじまいだったが、生きている幼虫も元気がなかったので、自然に返すことにした。

※子ども達と話し合いを続け、“クラスで飼いたい”という気持ちは変わらないので、他の元気な幼虫を探して飼う事にした。その際、元気に育てるためにはどうしたほうが良いかを考えた。話し合いの結果、お世話当番を決めることになり、仕事の内容が決まった。

保育者「元気に育てるにはどうしたらいいかな？」
A 子「ウンチしたら臭くなるからきれいにした方がいい」
C 子「葉っぱも入れてあげる。水も変えなくちゃ」
B 男「水をシュシュした方が元気になるよ」等々

→

お世話当番
・ウンチを畑に捨て、ケースを洗う
・水を替える
・霧吹きをかける

6/22（木）

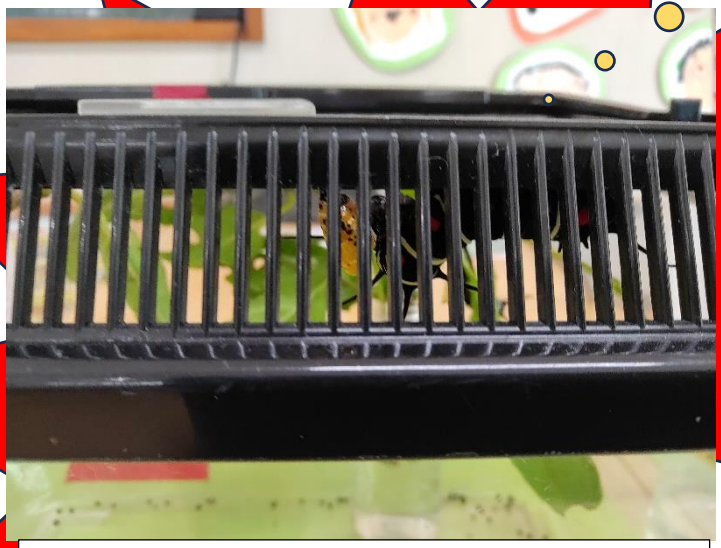
※３匹の幼虫を飼育ケースに入れ、飼育観察を再スタートした。登園後、子ども達同士声を掛け合って、虫のお世話当番をする姿がみられた。

＊葉っぱを食べる幼虫の動きを観察。子ども達の心の動きが見えてきます。だんだんと大きくなっていくうちに、オオゴマダラの皮がむけていることを発見！「脱皮っていうんだよ！」「おおきくなってる！」と喜びに声が上がる。順調に大きくなっていく幼虫に、クラス中のみんなが関心を寄せていた。

7/8（土）

大事件が発生‼

むしゃむしゃむしゃ



なんでだろう？

土曜日出勤の担任は、衝撃の事実を伝えるべきか悩んだが、週明けに伝えることにした。

うまれたばかりの柔らかいさなぎをなんと、

幼虫が食べちゃった‼

7/10（月）

＊子ども達の声（どうして？）

「さなぎと黄色いはっぱを間違えたんじゃない？」「おなかすいてたのかな？」「残りの２匹どうする？食べられたりしないかな」という声が子ども達からあり、ケースの中で分けてみようということになった。

残りの２ひき大丈夫かな!?

はなしてみよう！

上手くいくかな?!

遊びの振り返り

・飼育し始めて３週間後…

7/13（木）

ようちゅうが２ひきともさなぎになったよ！

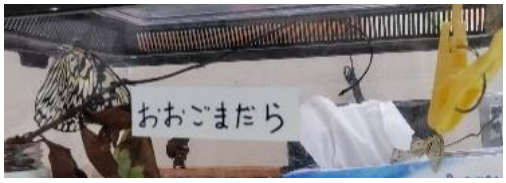
7/24（月）　１ぴきめ

さなぎの色がかわっている！

飛べるかな？

・さなぎになって 10 日後…

7/25（火）　２ひきめ



抜け殻の下に黄色い水がある！

抜け殻

がんばれ～きれ～い♡

～発見～

金色のわらかいさなぎがプルプルうごいた！
模様もでてきたよ！

とんだ～すご～い！！

ばいばい～げんきでね～

～発見～

さなぎの羽化を 2 回観察することができた。その中で朝の 8 時頃までには羽化し、3 時頃まで羽を乾かすためにじっとしており、その後、5 時頃、動き始めることがわかった。

～遊びに発展～

放った直後、ちょうちょになりたい！という一人のこえから…

カラービニールをハサミで切ったり、ペンで模様をかいたり、触覚をつくったり…

かわいくしよう！

どうやったら、うまくとべるかな！

出来上がったちょうちょの衣装は、お部屋にハンガー掛けを置き、いつでも楽しめる環境にしている。遊びの中で衣装を用いたごっこ遊びに発展し、楽しむ姿がみられる。

＊その後の嬉しい出来事＊

・オオゴマダラをみんなで放った日の翌週、クラスのテラスで遊びの振り返りをしていると、ひらひらっとおおこまだらが一匹（一頭)、テラスに飛んできた。みんな静かに見守り、「遊びに来てくれたんだね！」、「げんきだよって教えに来てくれたんだよ！」などと、子ども達の声が聞かれ、とても心地よい時間と不思議さに、心を揺り動かす経験をすることができた。

・オオゴマダラの飼育期間に、台風で避難させたカバマダラの幼虫も無事羽化することができ、放った後翌週、舞い戻ってきてくれた経験も続き、偶然かもしれない出来事から子ども達の中で、“羽化した場所に戻もどってくる”ステキなストーリーに想像を膨らませ感じる事ができたのは、おもしろく貴重な体験となった。

＊変化＊

・困ったことや発見があるたびにクラスで話し合い、喜び合ったり、いろいろな考えを発言し合ったり、他の子の意見を聞くという経験を繰り返してきた。その過程で、“育てる”に興味を持った子ども達、園庭で見つけタクワガタを、クラスで誰が世話すると決めたわけではないのですが、飼いはじめ、“餌がなくなっているからいれていい？”と伝えてきたり、コバエが入ってる！と、ケースの中の環境を考えたり、ケースの中にありを見つけた際は、入ってこないようにする為の方法はないかと、クラスで討論することもあった。このような経験から、他の生き物への興味・関心も広がった。

・オオコマダラを育てた経験から、“先生、これなんだろう？”と園庭で見つけた気になるものを持ってくることが多くなり、虫メガネを置いて、観察コーナーを作ってみた。オオゴマダラの抜け殻を置いてみることから始まり、葉っぱの裏についた小さな卵、いろいろな種など…。その中でも、印象に残ったのは、穴の開いたオクラを持ってきた子がいた。“なんだろうねえ～、育ててみる？”と聞いてみると明るい笑顔でうなずいた。廃材のカップに入れ、しばらく持ち歩くことが多かったのだが、本人の気持ちを第一に見守ることにした。幼虫が出てきた事をきっかけに置いて観察をしようと話し合った。その後、小さな黄緑色の蛾が羽化し、放してあげることができた。一緒に観察していた子が「ヨコバイだよ！」と教えてくれた。後日、その子がその虫のカードを持ってきてくれたこともあった。気になる！から始まり最後まで観察することで、穴の開いたオクラを見つけてきた子は、満足顔で放ったヨコバイを見送った。幼虫にクロちゃんと名前までつけて観察をしていた。

かばまだら

何かいる～

・１０月、クラスの花壇の葉っぱの裏で、羽化しそうなカバマダラのさなぎを見つけ、”先生、幼虫が真っすぐにぶら下がっているからもうすぐさなぎになるかも…“と、一人の園児が伝えてきた。遊びながらもそのさなぎの様子を観察していたこの子は、緑色に変身したさなぎを目にし、興奮気味に保育者に伝えてきた。そしてクラスの子供たちがこの声を聞き、集まり、みんなで観察することができた。一人の子供の発見・気づきによって、見つけた子、クラスのみんなでぷるぷる動くなりたてのさなぎを観察できたことも、これまでの経験が生きた瞬間であった。11 月には、他の幼虫を見つけ観察、無事ツバベニチョウも放つことができた。

≪考察≫

・オオゴマダラの飼育・観察を通して、他の生き物への興味関心も広がり、「育てたい」「観察したい」という前向きな気持ちが、子ども達の中に自然と育ち、子ども同士考えたり調べたり、みんなで一つのことを共有し合う様子が生活の中で感じられる。一人一人の観察のポイントも違えば感じ方も違う中、保育の振り返りにより、経験したことや考えたことなど、言葉で伝え合う等の 10 の姿の育ちも見られ、様々な体験ができ、クラスとしても成長したと感じる。

・子ども達が遊びこむためには、子ども達の発見、気づき、その瞬間にどれだけ保育者が共感し、子ども達が今何を感じ、何を見ているのかを常に感じ取り、子ども達を知る園児理解が第一であると痛感した。

・今回のまとめとして、「観察力はあるが、追及して物事を深掘りしていく力が弱い」という園児の実態を、園児理解の上、子ども達に寄り添い、適切な声かけや援助を心がけていくことで、追及して物事を深掘りしていく力が育ち、遊びこみに繋がる機会となった。テーマ・目標を今一度振り返ると、現状を一歩進めたと考える。これからもこの経験を継続して保育を繋げていきたい。

≪成果≫

・何かを発見すると、「育ててみよう」「観察してみようか」という子ども達からの声が上がり、「育てたい」「観察したい」「観察コーナーに置いてもいい？」という自らの前向きな意思表示の言葉が続いて聞かれるようになり、自主的に行動し、観察する姿が見られるようになった。

・オオゴマダラの羽化を観察し続け、気づきや発見の中から、好奇心や探究心、観察力を培っていく時間を過ごすことができ、仲間と共に心の満足感を感じる時間を持てた。

・園の自然環境を活かし、友達と共に心が揺さぶられる体験を重ねることができた。

《課題・対応策》

・園児がもっと生き物と身近に触れ合うことができるよう、様々な食草を植え、環境を整える

・絵本や図鑑を充実させることで、いつでも調べる環境を作っていく

～可視化をするために部屋に観察の流れを表示した～

写真で観察の過程を掲示することで、じっくり見る子や、友だちとその頃の話をする姿があった。

～みんなで作った紙芝居～

１２月の生活発表会で「おおごまだらのせいかつ」の紙芝居を、自信を持って発表した。